

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

とするホスピスやビハーラといった宗教を背景する医療施設が身体的ケア、精神的ケア、社会的ケアと並んで重視するスピリチュアルケアの問題とも通底する世俗化（非宗教化）された現代世界の課題でもあります。ですから、ヨハネ 6：36-37 はイエスの教えが身体的・物質的・外的な命に関わるものであると同時に、精神的・霊的・内的な命に関わるものであることを伝えており、現代世界が忘れかけていることを思い起こさせようとしているのです。キリスト教が瞬く間に古代地中海世界に広まっていったのは、イエスの教えがトータルな人間存在の大切さを伝え、それが社会的・精神的な抑圧に喘ぐ人たちの救い（解放）として受け入れられたことが大きな要因です。ですから、37 節でヨハネ教会が自らのもて来る人たちに「決して追い出さない」と宣言しているのは、トータルな人間存在が相互に共生する世界を目指すイエスを継承しているからにほかなりません。

しかしながら、その後のキリスト教は、とりわけ 4 世紀末にローマの国教になって以降、他者を排除する側に身を置くようになってしまったのです。ユダヤ人差別、異教徒迫害、魔女裁判（性差別）、レッドパージ、イスラモフォビア、ホモフォビアなどがその典型です。確かに、キリスト教にも真に大切なもの、譲ることのできないことがあります。この点については、ラインホルド・ニーバーの「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」（大木英夫訳）という祈りが想起されます。排除に排除で対応することなく、「排除から共生へ」の道を選びつつ、「可変と不変」を真に峻別する冷静さ、勇気、知恵が今まさにこの世界に必要なのです。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝】2026年6月9日（火）10時40分

聖書：ヨハネによる福音書 1 章 1-5 節

奨励：「万物は言によって成った」宮庄 拓（獣医保健看護学類准教授）

讃美歌：第一編 260 番、第一編 270 番

【前回の大学礼拝】2026年5月26日（火）

学生：147 名 教職員ほか：8 名 合計：155 名

【大学礼拝週報】2026年度 第7号（前学期第7号）

2026年6月2日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司式 小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）

奏楽 佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）

讃美指導 相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前奏 わがたまは主をあがめて（ワルター作曲）

讃美歌 讃美歌第二編 192 番（シャロンの花）

聖書 ヨハネによる福音書 6 章 36-37 節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨励 「排除から共生へ——可変と不変」 小林昭博（宗教主任）

祈り

讃美歌 讃美歌第二編 157 番（この世のなみかぜさわぎ）

報告

後奏 愛するイエスよ（ワルター作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書 6 章 36-37 節（新共同訳）

³⁶しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じない。³⁷父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもて来る人を、わたしは決して追い出さない。

【奨励】「排除から共生へ——可変と不変」

本日の聖書は有名な「命のパン」の教説の一節です。イエスが語る「命のパン」とは、身体的・物質的・外的な命にとってパンが不可欠であるように、精神的・霊的・内的な命にとってはイエスの教えが欠くべからざるものであることを伝えていきます。現代日本では精神的・霊的・内的な命と言われても、非科学的として一笑に付されてしまうかもしれませんが、現在の戦禍や数年前までのコロナ禍では、身体的・物質的・外的な命を超えた精神的・霊的・内的な命に思いを馳せることもあったのではないのでしょうか。この点は命の期限を突きつけられた人に対するターミナルケアを目的